

フォトライフ

四季

カメラのキタムラ カメラとビデオのビッグチェーン
〒222 横浜市港北区新横浜2-4-1
☎045-476-0777
平成9年3月1日発行
季刊第20号

カメラの
キタムラ®

vol.20
SPRING

今号より、「写友缶」は新しい名称に変わりました。

特集 写真家・三好和義氏

美しい四季の自然に心を通わせ、
今、日本に「楽園」を求める。

「サラブレッド」を撮る 内藤律子氏インタビュー

大自然の四季の中で、馬たちの姿を見つめ続けたい。

保存版 カメラバッグ特集

超ワイドレンズを使って順光で桜を撮影。青空を強調した。後方には岩木山が見える。

■カメラ：リンホフマスタートヘニカ4×5
レンズ：スーパーアングロン65mm
絞り：f32 シャッタースピード：1/2
フィルム：プロビア 三脚・PLフィル
ター使用 撮影地：青森県・弘前城
〈撮影〉三好和義氏



フォトライフ
四季

CONTENTS
Vol. 20
SPRING



小雨の中、山には霧がかかり狙ったシーンが撮れた。屋根と桜の枝の重なり具合に気を遣った。
■カメラ：リノフマスターテニカ4X5 レンズ：フジノン T400mm 絞り：f16 シャッタースピード：15秒 フィルム：プロビア 三脚使用 撮影地：山梨県・久遠寺（撮影）三好和義氏

特集 写真家・三好和義氏

美しい四季の自然に心を通わせ、
今、日本に「楽園」を求める。……………2

キタムラが薦めする「春の花」撮影ポイント……………8

THE フォトワールド®「サラブレッド」を撮る 内藤律子氏インタビュー
大自然の四季の中で、馬たちの姿を見つめ続けたい。……………12

保存版 カメラバッグ特集……………23



「若草香る」若草の頃になっても、遅生まれの仔馬はまだ、母馬の側から離れようとはしない。
■カメラ：ニコンF3 レンズ：80~200mmズーム 絞り：f5.6 シャッタースピード：1/125 フィルム：EPR 撮影地：北海道浦河町（撮影）内藤律子氏

カメラのキタムラ ホームページのご紹介……………22

連載記事

- 写真おもしろヒストリー⑫
写真文化の歩みを伝えるカメラの殿堂
日本カメラ博物館 PART1……………11
- メーカー探訪⑦ マミヤ編……………14
- フォトライフ ステップアップレッスン⑧
接写を知って、写真の楽しさを広げよう。……………16

- 第5回全国「秋の彩」フォトコンテスト入賞作品発表……………20
- 読者のページ フォトライフ四季 ふれあい広場……………28
- プレゼントが当たる！クロスワードパズル……………28
- 編集後記……………28

新しい写真の時代へ



MINOLTA

APS一眼レフカメラ
VECTIS S-1

アドバンスド・フォト・システム (APS) の先進機能をフル搭載したベクティスS-1は、これからの時代の超小型一眼レフカメラ。簡単な操作でひとクラス上の高画質な映像が得られます。また、充実のレンズ、アクセサリ群に加え、テレビやパソコンで写真が楽しめるフォトプレーヤーもラインナップ。新しい写真の楽しみ方を提案していきます。ミノルタ ベクティスS-1誕生。新しい写真の時代がはじまります。

- 旅行などの際の携帯にも便利。高性能を凝縮した超小型・軽量設計。
- フィルムは、ポンと入れるだけのワンタッチローディング。
- 小雨や雪の中でも安心して撮影することができる防滴設計。
- 途中で巻き戻したフィルムが再度使えるフィルム途中交換機能。
- テレビの大画面やパソコンで写真が鑑賞できるフォトプレーヤー。
- 5本のレンズやカメラガード、水中ハウジングなど、アクセサリ群も充実。

ベクティス希望小売価格(税別) ●ベクティスS-1 Vズーム22-80mm F4.5-5.6付……………¥100,000 ●ベクティスS-1ボディ(チタンカラー・ブラック)……………¥62,000 ●Vズーム22-80mm F4.5-5.6 (28-100mm※4)……………¥38,000 ●Vズーム28-56mm F4.5-5.6 (35-70mm※4)……………¥20,000 ●Vアポズーム80-240mm F4.5-5.6 (100-300mm※4)……………¥53,000 ●Vズーム56-170mm F4.5-5.6 (70-210mm※4)……………¥29,500 ●Vマクロ50mm F3.5 (63mm※4)……………¥35,000 ●ベクティスフラッシュSF-1……………¥18,000 ●ベクティスフォトプレーヤーVP-1……………¥59,800 (リモコン付)
■カタログ運呈 住所・氏名・年齢・機種名をご記入のうえ右記まで 〒108 東京都港区高輪2-19-13 (NS高輪ビル) ミノルタカメラ販売株式会社 写真部係 ●ミノルタベクティスS-1のお問い合わせフリーダイヤル0120-493-881 ●お客様商品相談窓口 ☎(03)5423-7555 ☎(06)271-2641 ※1 JIS保護等級2 (防滴Ⅰ型)相当。 ※2 ビデオ入力端子付のパソコン、またはビデオキャプチャーボードを装備したパソコン。 ※3 ベクティスS-1専用アクセサリ。 ※4 35mmフィルムに換算した概算焦点距離。 ※5 1996年10月1日現在。標準ズーム(22-80mm)付、レンズ交換式AF一眼レフカメラにおいて。 ●Vレフレックス400mm F8 (500mm※4)は今後発売の予定。

(ミノルタから新発売)



VECTIS S-1



世界最小最軽量。*5 ミノルタ ベクティスS-1誕生。

特集 写真家・三好和義氏

美しい四季の自然に心を通わせ、
今、日本に「楽園」を求め。

カメラのキタムラ「全国春の花」フォトコンテストで、毎年審査をお願いしている写真家・三好和義先生は、皆さんもご存知のとおり、タヒチに代表される南の島の「楽園」をテーマとした一連の作品で注目されました。その後先生はヒマラヤやサハラ砂漠など世界各地に撮影の場を広げ、現在は屋久島や富士山、桜といった日本の風景にも「楽園」を見出し、新たな活動を展開されています。その三好先生にインタビューを行ない、「自身の写真に対する考えや「楽園」というテーマについて、そして現在までの様々な撮影活動に関するお話を伺いました。

※なお、表紙及び特集ページに掲載した写真は、すべて三好氏の作品です。

逆光で桜の花びらの透明感を強調。レンズに光が直接入らないようにカットした。

■カメラ：リンホフマスターテヒニカ4×5 レンズ：コダックコマーシャルエクター300mm 絞り：f8 シャッタースピード：1/8 フィルム：プロビア 三脚使用 撮影地：東京都・金剛寺



梅は香りを楽しみながら撮る。青空には白梅が映える。

■カメラ：リンホフマスターテヒニカ4×5 レンズ：ニッコールS W 90mm 絞り：f32 シャッタースピード：1秒 フィルム：ベルビア 三脚・PLフィルター使用 撮影地：東京都・神代植物園



盆栽は、日本独特のものだ。ソフトフォーカスが、懐かしさと日だまりの暖かさを表現してくれる。

■カメラ：リンホフマスターテヒニカ4×5 レンズ：ヘリット210mm 絞り：f8 シャッタースピード：1/8 フィルム：プロビア 三脚使用 撮影地：東京都・京王百草園



みよしかずよし
1958年徳島県生まれ。東海大学文学部卒業。79年A P A 特選、86年木村伊兵衛賞、95年タヒチ政府特別賞。88年・94年は日本カメラ月例審査員を務める。写真集は「タヒチ伝説の楽園」「楽園の友だち〜イルカ〜」「屋久島の森」「美しい日本の四季」（以上小学館）、「SAHARA! 金の砂 銀の星」（文藝春秋）、「吉永小百合」共著（世界文化社）など多数。今年、「楽園の原点 オキナワ」及び「楽園大百科（仮題）」（小学館）の出版を予定。



川辺に咲く菜の花。水がぬるんだ春のなつかしい景色。山の重なり具合を考えて構図を決めた。

■カメラ：リンホフマスターテヒニカ4×5 レンズ：フジノンT400mm 絞り：f32 シャッタースピード：1/2 フィルム：プロビア 三脚・PLフィルター使用 撮影地：西伊豆・松崎



日蔭に咲く梅の花を撮った。陽が当たると蔭が強く出て、淡い色調がうまく出ないからだ。

■カメラ：リンホフマスターテヒニカ4×5 レンズ：CMフジノン300mm 絞り：f11 シャッタースピード：2秒 フィルム：プロビア 三脚使用 撮影地：神奈川県・横浜本牧三溪園



久遠寺にある老木のしだれ桜。早朝、薄日が差して、逆光に輝いている。木の下には花見客がたくさんいたので望遠で上部だけを切り取った。

■カメラ：リンホフマスターテヒニカ4×5 レンズ：フジノンT400mm 絞り：f22 シャッタースピード：2秒 フィルム：プロビア 三脚使用 撮影地：山梨県・久遠寺



懐かしい風景に出逢った。ソフトフォーカスにして明るく桜を撮った。

■カメラ：リンホフマスターテヒニカ4×5 レンズ：ヘリット210mm 絞り：f8 シャッタースピード：1/8 フィルム：プロビア 三脚使用 撮影地：秋田県

写真とは風景を「採集」すること。そこには新しい発見がある。

少年時代に見た沖縄の海に、「楽園の原点」がある。

まず、三好先生にとつての「写真」の魅力とは何かをお聞きしたいのですが。

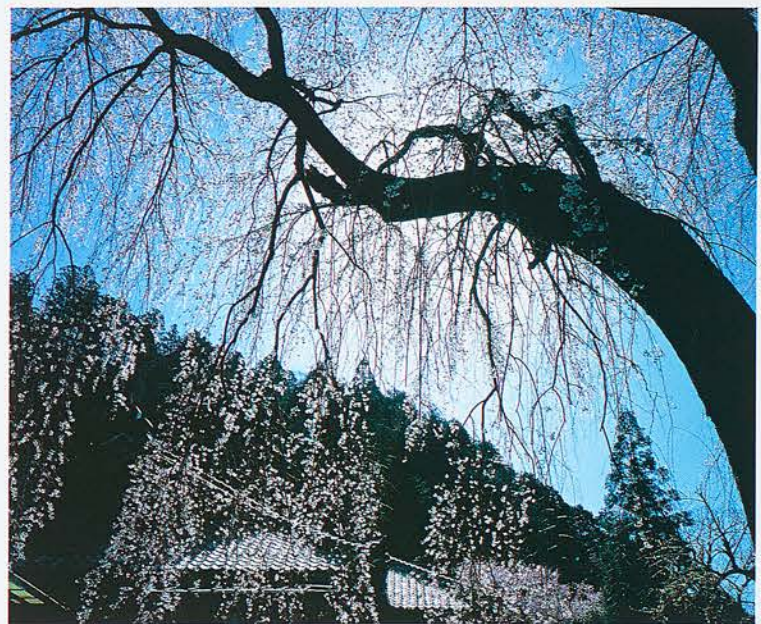
子供の頃の私は昆虫採集が好きだったのですが、自分にとつての写真には、それと同じように「好きな風景を採集する」そして「コレクションする」という意味合いが強いです。南の島へ行って、その美しい風景を脳裏に焼き付けてくる、ということでもひとつの思い出にはなりますが、それらを「写真」という形で採集してアルバムに貼るとか、一冊の写真集にすることで、標本のように整理・分類され、後でその風景をありありと思い出すことができるんです。また実際に見ていない人にも、その良さを伝えることができますし、そして現場ではわからなかったことを、写真を見ることで改めて発見することだってあります。情景を文章で表現しようとしたら、その場で感じたこと意外は記録されませんが、写真ならその場ではわからなかったことまで、全て写し込まれてしまうんです。そういう意味では、人間の記憶以上のものですね。

先生が写真を撮り始めたのはいつ頃からですか？

私が写真を撮り始めたのは中学生の頃でした。私の実家は徳島なのですが、実はその近くにカメラのキタムラがあり、当時の私は毎日のように利用していたんです。そこで写真



強い風の吹いた翌朝に桜を撮りに出かけた。黒い幹をアクセントに画面を構成。
■カメラ：リンホフマスターテヒニカ4×5 レンズ：ニッコールSW90mm 絞り：f32
シャッタースピード：2秒 フィルム：プロビア 三脚使用 撮影地：東京都・新宿御苑



逆光で桜の花びらを光らせて撮った。また、木の幹をシルエットにして画面を構成的にした。
■カメラ：リンホフマスターテヒニカ4×5 レンズ：ニッコールSW90mm 絞り：f32
シャッタースピード：1/8 フィルム：プロビア 三脚使用 撮影地：山梨県・身延山 武井坊

の材料を買ったり、店員さんから話を聞いたりするうちに、どんどん写真の面白さに引き込まれていきました。私が「楽園」というテーマを追い始めた原点も、この時期にあると思います。そのひとつは、生まれ育った徳島の南国的な風土、人の気性もほかと比べて大らかな感じがします。また、中学時代に初めて沖縄を訪れたのですが、そこで強烈に影響されたのは、「楽園」という言葉こそまだ使っていなかったものの、沖縄に惹かれて中学・高校時代に何度も足を運んで撮影を続けまし

た。今度、その頃の作品をまとめた「楽園の原点 オキナワ」という写真集を出す予定です。写真とは科学的俳句。撮る者の心情を自然に込めて表現する。

プロとなられてからも、ずっと「楽園」をテーマにされているわけですね？

プロの写真家となつてからも私は当初、セインセルやモルジブなど、南の島の「楽園」を追い続けていました。その中でも写真集を二冊出しているタビチという所は、ビーチが美



小雨の中で撮影。枝についた水滴が美しい。枝のボケ具合に気を遣った。桃のつぼみがみるみる開いていくように思えた。
■カメラ：リンホフマスターテヒニカ4×5 レンズ：コダックコマースハルエクター-300mm 絞り：f22.5 シャッタースピード：4秒 フィルム：プロビア 三脚使用 撮影地：山梨県・身延山 麓坊



夕暮れ時に撮影した桜。落ち着いた色調を出すことができた。
■カメラ：リンホフマスターテヒニカ4×5 レンズ：フジノンT400mm
絞り：f32 シャッタースピード：4秒 フィルム：プロビア 三脚使用
撮影地：秋田県・角館町



霧の中、逆光で淡墨桜を撮影。巨大な樹がシルエットになって浮かび上がった。
■カメラ：リンホフマスターテヒニカ4×5 レンズ：90mm 絞り：f32 シャッタースピード：1/8 フィルム：プロビア 三脚使用 撮影地：岐阜県・根尾村



小雨の中で撮影したシヨウブ。水滴を強調するために絞りを開放気味にした。
■カメラ：リンホフマスターテヒニカ4×5 レンズ：CMフジノン300mm 絞り：f8 シャッタースピード：1/4秒 フィルム：プロビア 三脚使用 撮影地：東京都・明治神宮

しいのはもちろんですが、深い森があることにも気づいたんです。その森で素晴らしい光景を見たことがきっかけで、私は世界中で最も森が深い所を調べてみました。そうしたらこれが意外にも日本の屋久島だったんです。樹齢何千年というような樹は、世界でもごく限られた場所には存在しないのですが、屋久島にはそれが残っている。それで出かけてみる気になったんです。訪れてみると「これはすごい」と思いました。昔から日本では、森に神が宿ると言われますが、私も深い森の中のテント生活に、心地よい「癒し」を感じました。森の空気を吸い、大きな樹の根本で眠ることで心が満たされる。これこそ「楽園の極致」だと思いました。今の日本人が忘れてしまった何かが、森の中にはあるんです。昔の人が神の存在を感じたのも、そういう場所、そういう時間なのだと思います。

また、サハラの砂漠を撮りに行った時には、違った意味で日本というものを意識させられました。楽園とは対極にある過酷な状況の中で、ふつと私の頭に浮かんだ景色というのは、生まれ故郷の吉野川だったんです。水のない

サハラで、子供の頃に水遊びをしたきれいな水辺が懐かしく思い出されたんです。私はこの体験から吉野川の風景も撮ってみたいと思いました。このように、行った先々で「楽園」は日本にあるのではないかと感じてきたわけです。

今まで気づけなかった、身近にある「楽園」を意識されるようになったのですか？

やはり人は皆、心のどこかで楽園とか理想郷のようなものを求めているのではないのでしょうか。以前、富士山をテーマにした写真集を出したのですが、これなどはまさに日本人にとつての「心の楽園」であると私は考えています。私が撮りながら感じたのは、富士山が目の前にあることで心が本当に癒されること。そして実際に目の前に富士山がなくても、撮られた写真を見ることで、その大きさや存在感を感じることもできます。自然風景の



小雨の中で撮影。しだれ桜はちょっとした風で揺れるため、ブレには気を遣う。枝に水滴がついていた。
■カメラ：リンホフマスターテヒニカ4X5 レンズ：コダックコマースハルエクター300mm 絞り：f8.5 シャッタースピード：1/8 フィルム：プロビア 三脚使用 撮影地：山梨県・身延山 麓坊

ブでとらえていることです。そういう作品にもいいものはありますが、私はもつとダイナミックでドラマチックな情景を見せてほしいと思います。そのためにはまず、被写体としての内容も、構図的にも、奥行きや深みのあるロケーションを探すことが大切なんです。私自身、特に屋久島の森などで強く感じたことですが、写真を撮ることで、被写体のもつ波長のようなものに自分の気持ちが同調してくるんです。カメラを構えることによっては、澄まされる。そしてファインダーを見ることで何かを感じ取る。これは私に限らず、写真を撮る人は、皆していることなのでしょうが、それに撮影者自身がどれだけ気づくかが大切だし、そうした意識が反映された作品というのは、コンテストでも上位に選ばれているでしょう。良い作品にはこうした波長が表れているはずですから、見る側にもそれが一瞬のうち



霧の中での撮影。アジサイは、やはり雨がよく似合う。
■カメラ：リンホフマスターテヒニカ4X5 レンズ：ニッコールT500mm 絞り：f45 シャッタースピード：10秒 フィルム：プロビア 三脚使用 撮影地：千葉県・麻綿原高原

に伝わるんです。私は自分が撮影する時にも見る側に回った時も、その波長を大切にしたいと思うし、今回のコンテストの審査を引き受けたのも、そういうものを感じたいからなんですよ。
——— どもありがとうございます。

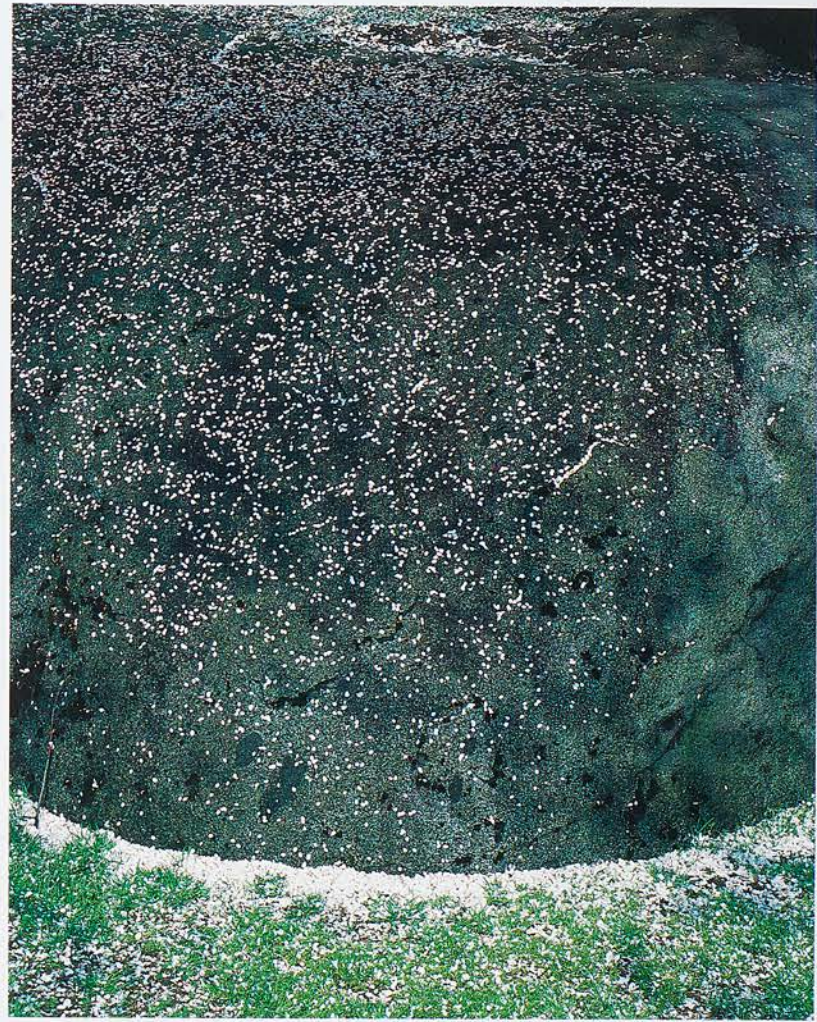
自然風景の素晴らしさ、それは目にするだけで心が癒されること。

素晴らしさは、それを目にするだけで心が癒されることだし、その自然を撮る人も見る人も「楽園」を感じる事ができるのが、「写真」という表現の素晴らしさなんです。

こうした「日本の楽園」をテーマに撮り続ける中で、最近「美しい日本の四季」という写真集を出版しました。その中で私は、「写真は科学的俳句である」ということを述べているんです。俳句というのは日本人独特の表現方法ですが、四季の自然の美しさを詠むだけでな

く、その時々における自分の心理的なものや、より微妙な感じまで短い文章の中に表そうとする。写真もそれに近く近いものだと思うんです。

そういう意味で、例えば桜を被写体とするなら、撮る人の心情まで含めて写真に表現されなければいけないんです。桜の咲く春ならではの、希望がふくらむウキウキした気分。撮影者自身がそういう気持ちを盛り上げて、カメラを向けることが大切です。



有名な石割桜を撮影。散った後の桜の花びらが星のように見えた。
■カメラ：リンホフマスターテヒニカ4X5 レンズ：CMフジノン300mm 絞り：f32 シャッタースピード：2秒 フィルム：プロビア 三脚使用 撮影地：岩手県・盛岡市

自然の波長を撮影者が感じ、そして作品に表現される。

三好先生の今年の活動予定をお聞かせください。

今年私は、先ほど述べた「楽園の原点オキナワ」という写真集を作ることと自分のテーマの「大百科」というタイトルを予定しているのですが、この10年間に撮りためた、南の島の「楽園」シリーズの集大成を出版します。自分にとって、また日本人にとっての「楽園」とはどういうものかを再認識するとともに、作品を見



風が吹いた瞬間を狙ってシャッターを切った。
■カメラ：リンホフマスターテヒニカ4X5 レンズ：ニッコールS W90mm 絞り：f32 シャッタースピード：1/2 フィルム：プロビア 三脚・PLフィルター使用 撮影地：山梨県・実相寺

る方にもはっきりと提示したい。それが現在、私が目標としていることです。

今年も「全国春の花」フォトコンテスト」の審査を先生にお願いするのですが、最後に応募者へのアドバイスをいただければと思います。

花を撮る上で最も難しいのは、いかに奥行きや深みを持たせるかということです。このコンテストに関して応募作品のレベルから言えば、私から見てもかなり高いと思います。ただ、審査をしていて感じるのは、手軽に撮れるせいか、応募作品の半数近くが花をアッ



望遠レンズで、巨木の上部を切り取った。空を入れないようにして、花の白さを強調。
■カメラ：リンホフマスターテヒニカ4X5 レンズ：フジノンT400mm 絞り：f25 シャッタースピード：1/4 フィルム：プロビア 三脚使用 撮影地：岐阜県・根尾村



麓坊のあたりには、しだれ桜がたくさんある。淡い色を大切にしたいかったのでプロビアを使った。バックが山陰になるように、少し上から撮影。
■カメラ：リンホフマスターテヒニカ4X5 レンズ：コダックコマースハルエクター300mm 絞り：f11.5 シャッタースピード：1/10 フィルム：プロビア 三脚使用 撮影地：山梨県・身延山 麓坊

カメラのキタムラ 第5回全国「春の花」フォトコンテスト

「第5回全国「春の花」フォトコンテスト」 作品募集のお知らせ

賞金総額500万円!

年々応募点数も作品のレベルもアップしており、写真ファンの皆さんにもすっかりおなじみとなったキタムラ「全国「春の花」フォトコンテスト」。今回も桜はもちろん、春に咲く花をモチーフとした作品なら何でもOKですので、皆さんの傑作・力作をふるってご応募ください。

※詳しくは、3月中旬よりカメラのキタムラ店頭に設置される応募用紙またはポスターをご覧ください。

〈一般の部〉

1 ①中島 隆志氏 ②北海道雨竜郡雨竜町 雨竜沼湿原の東側100~200mの登山道 ③JR函館本線江部乙駅下車→車で約30km→雨竜沼湿原 登山口から徒歩80分(3km) ④6月上旬~中旬



5 ①原田 勇氏 ②静岡県富士宮市 下馬桜の裏側約30m ③JR身延線西富士宮駅下車→タクシー→20分 ④4月中旬 午前6時頃 夕方



9 ①岡本 慎二氏 ②沖縄県八重山郡竹富町 新田観光 水牛車乗り場横 ③石垣島離島棧橋→八重山観光フェリー→高速船10分→竹富港→水牛車乗り場 まで車で10分 ④5月上旬 終日撮影可

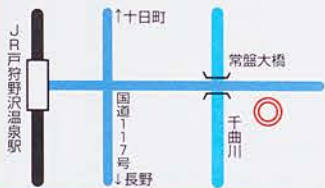


●印はカメラのキタムラがある地域。

4 ①堀江 節子氏 ②栃木県佐野市 万葉自然公園かたくりの里(カタクリ群生地内) JR両毛線佐野駅、東武佐野線佐野駅から約5km(レンタサイクル有り) 3月下旬~4月上旬 午前11時頃



3 ①小林 俊昭氏 ②長野県飯山市 常盤 国道117号線常盤大橋 千曲川沿い ③JR飯山線戸狩野沢温泉下車→タクシー→10~15分 ④5月上旬~中旬 午前8時~10時、午後3時~6時



2 ①清水 定雄氏 ②新潟県新井市 市内 妻太神社 裏手 ③JR信越本線新井駅→徒歩約30~40分 ④4月上旬~中旬(豪雪地帯のため変動が多い) 午後が良い



ここにご紹介する撮影ポイントおよび写真は第4回全国春の花フォトコンテストに入賞された方々にご協力いただいたものです。

説明の番号は①=撮影者 ②=撮影場所 ③=交通手段 ④=撮影チャンス時期と時間

※ここに掲載した撮影ポイントは、ほんの一例です。 ※撮影時期はその年の天候によって左右されます。確認の上お出かけください。

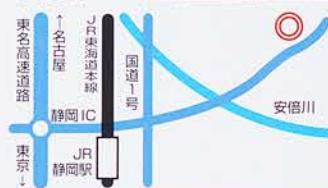
※掲載写真は昨年以前に撮影されたものであるため、現在は景観が変わっている場合がありますのでご了承ください。

※ここにご紹介した場所で撮影をする場合は、常識的なエチケット・マナーを守るようにしましょう。特に撮影地の所有者及び近隣に迷惑をかけるまい、また自然環境への配慮などを忘れないよう、ご注意ください。

6 ①吉本 典正氏 ②京都市平安神宮 応仁門を入ってすぐ ③JR京都駅下車→市バス5番線→徒歩3分 ④4月上旬 正午頃



5 ①城内 由利子氏 ②静岡県静岡市 山間地にある貯水池 ③JR東海道本線静岡駅下車→静鉄バス(美和大谷線7番線)奥長島行き→八十岡下車→徒歩15分 ④4月上旬 午前8時~10時頃 ※私有地に入らないように注意してください



4 ①阿部 孝氏 ②埼玉県秩父市 市久那郡 秩父札所25番久昌寺 ③西武鉄道秩父線、秩父鉄道浦山川駅下車→国道140号線(浦山川沿い荒川を渡る)→徒歩約30分 ④4月中旬 午前10時頃



3 ①櫻本 定行氏 ②長野県阿智村 園原地区 駒つなぎの桜 ③JR飯田線飯田駅下車→南信交通バス屋神温泉行き→終点下車→徒歩7km ④4月下旬~5月上旬 日の出から午前10時頃



10 ①黒田 達雄氏 ②熊本県阿蘇郡高森町 九十九曲峠 325号線旧道 ③JR豊肥線野野原駅下車→南阿蘇鉄道高森駅下車→325号線に沿って徒歩40分 ④4月中旬 午後6時30分頃



9 ①明神 良雄氏 ②高知県高岡郡仁淀村 別枝 ③JR土讃線佐川駅→JRバス松山行き大渡ダム下車 ④4月上旬



8 ①広田 和夫氏 ②山口県厚狭郡楠町 吉部の大岩郷(特別天然記念物) ③JR山陽本線厚狭駅下車→船鉄バス吉部行き大岩郷入口下車→徒歩10分 ④4月中旬 午前6時~10時頃



7 ①中廣 英明氏 ②岡山県真庭郡落合町 別所 吉念寺集落 ③JR姫新線美作落合駅下車→タクシー→30分(約16km) ④4月中旬 午前8時頃



キタムラがお薦めする 「春の花」撮影ポイント

〈桜の部〉

2 ①角谷 健次氏 ②新潟県南魚沼郡六日町 上の原 お松の池 ③JR上越線六日町駅下車→越後交通バス上の原下車→ミナミスキー場前から徒歩5分 ④4月下旬



1 ①三田村 要悦氏 ②岩手県岩手郡玉山村 字日戸 天峰山山頂より岩手山を写す ③東北自動車道 盛岡インター→国道46号線→国道455号線(岩泉方面へ)→天峰山 ④5月下旬 午後4時~5時



写真文化の歩みを伝えるカメラの殿堂 日本カメラ博物館 PART1



ジル・ダゲレオタイプ・カメラ
フランス人ダゲールにより発明されたダゲレオタイプ（銀板写真）の技法に基づき、1839年に発売された世界最初の市販カメラ。世界中で数台しか現存しておらず、日本ではここでしか見られない貴重な逸品。（常設展示）



フォトスフェール
1889年フランス製。いかにもフランス貴族らしい優雅な趣味や暮らしを思い起こさせる、装飾彫金が表面に施されている。（常設展示はされていない収蔵品）

エスコベット
釣り鐘のようなレンズや、銃のようなグリップなどが付いた、1888年ドイツ製の珍品カメラ。使用フィルムも、「紙ネガ式」と呼ばれる初期のもの。（常設展示はされていない収蔵品）



しい「眼レフや距離計連動のフォーカルプレーン・カメラなどの名機たちがズラリと並んでいます。また、片手にすっ

も、ダゲレオタイプ・カメラで撮影された「銀板写真」や幕末には日本にも伝えられた「湿板写真」など、初期の写真技術についてわかりやすく解説したパネル、そ

AF一眼レフやコンパクトカメラなどがたやすく入手できる現在、誰でもが写真撮影を簡単に楽しめますが、今から百年以上の昔、「一枚の写真を撮る」ということは作業的にも金額的にも大変なことでした。このように写真技術やカメラの機能も今とは比べものにならないくらい

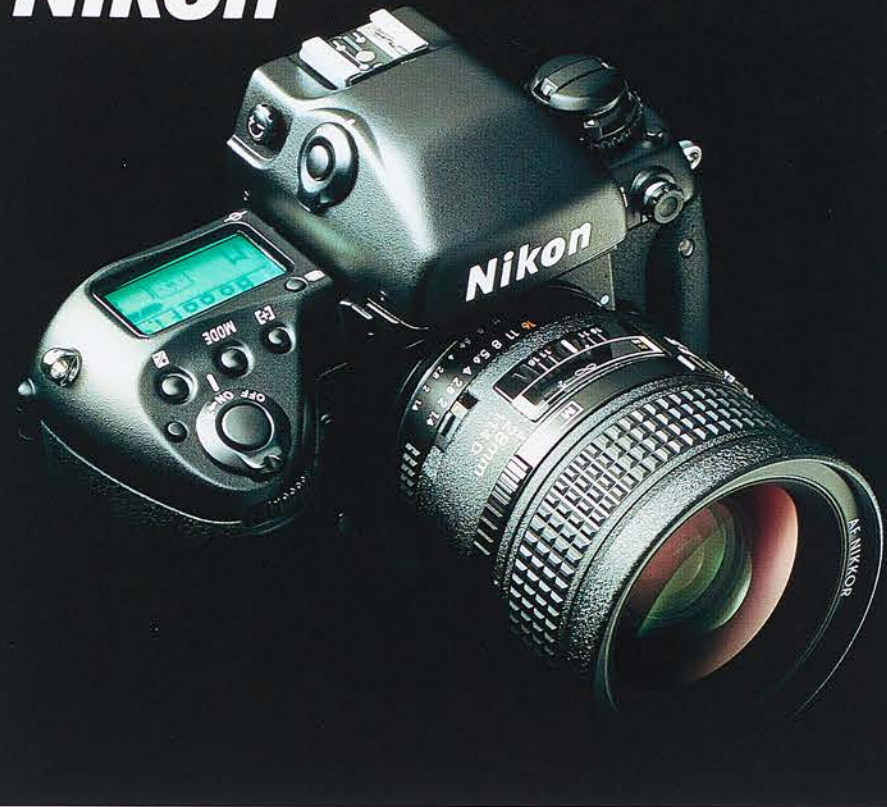
代の、「話や資料でしか知らなかった」ようなカメラを現実を目にすることができ、現在に至るカメラの発展史が一目で見渡せる施設、それが東京の千代田区にある「日本カメラ博物館」です。

さらにこの博物館では、国外の貴重なカメラも多数コレクションしています。その中でも特に文化的な価値の高いものは、世界最初のカメラとして知られる「ジル・ダゲレオタイプ・カメラ」。日本ではこの博物館でしか所蔵されていない逸品として常設展示され、来館者の注目を集めています。

して立体写真の原理を体験できるコーナーなどもあり、楽しみながらカメラや写真に関する知識が得られるようになっていきます。ヨーロッパで生まれ、その発展には我が国の技術も少なからず貢献したカメラと写真の歴史、皆さんも「日本カメラ博物館」を訪れば、現在のあなたの愛機に搭載されている多彩な機能は、ここに居並ぶ多くの歴史的カメラたちの、輝かしい遺産であることに気づくはずですよ。

写真おもしろヒストリー 12

Nikon



F・新次元。



そして映像は未体験領域へ

Nikon F5

希望小売価格(税別)
ボディ本体(ストラップ付) ¥325,000
AFニッコール50mmF1.4D付 ¥360,000
標準装備: マルチフォトリックファインダーDP-30・EC-Bスクリーン

■カタログをご用意しています。機種名をご明記の上、100-91東京中央郵便局私書箱1269号 株式会社ニコン お客様相談室宛ご請求ください。

株式会社ニコン 本社 100 東京都千代田区丸の内3-2-3(富士ビル) 製品に関するお問い合わせは「お客様相談室」まで。電話(03)3216-1010

京セラ株式会社

Dynamic Maturity
CONTAX G2



- アクティブ方式とバンプ方式併用による高速・高信頼性のオートフォーカスシステム。
- 大型フォーカスタイヤルにより操作性を向上させたマニュアルフォーカス。
- 最高速1/6000秒、ストロボシンクロ1/200秒の高速シャッター搭載。
- 最高約4コマ/秒の高速モータードライブによる撮影レスポンス向上。
- Gシリーズ用最新交換レンズ、Biogon T* 21mm F2.8、Planar T* 35mm F2を同時発売。
- メーカー希望小売価格(税別)/G2本体:163,000円、データバックGD-2:65,000円、ピオゴン T* 21mm F2.8:120,000円、プラナー T* 35mm F2:47,000円

お問い合わせ:京セラ(株)光学機器事業本部
〒150 東京都渋谷区神宮前6-27-8 TEL.03(3797)4611(代)
©京セラインターネットホームページ http://www.kyocera.co.jp/



日本カメラ博物館

〒102 東京都千代田区一番町25番地 JCI一番町ビル
TEL:03-3263-7110



- 開館時間/10:00~17:00
- 休館日/毎週月曜日(祝日の場合は翌日)
- 入館料/一般300円(団体200円)
小・中学生100円(団体50円)
- 交通/地下鉄半蔵門線・半蔵門駅下車4番出口から徒歩1分、都バス(新宿西口→晴海埠頭)半蔵門下車徒歩4分

特別展開催中
「写真の楽しさを
無限に広げる道具展」
5月11日(日)まで



『秋空』母との別れを予感しているのだろうか、この時期の仔馬の姿はどこか寂しげだ。
 ■カメラ：ニコンF3 レンズ：35mm 絞り：f8 シャッタースピード：1/250 フィルム：RVP 偏光フィルター使用 撮影地：北海道浦河町



『自然に拍手』刺すような寒さをものともせず、朝の光の中、はつらつと若駒たちがたわむれる。
 ■カメラ：ニコンF3 レンズ：80~200mmズーム 絞り：f4 シャッタースピード：1/125 フィルム：EPR 撮影地：北海道浦河町



『希望』生まれてすぐの仔馬を気づかう母馬の瞳には、愛情がいっぱいに溢れている。
 ■カメラ：ニコンF3 レンズ：50mm 絞り：f2 シャッタースピード：1/60 フィルム：EPT 撮影地：北海道浦河町

「希望」生まれてすぐの仔馬を気づかう母馬の瞳には、愛情がいっぱいに溢れている。カメラ：ニコンF3 レンズ：50mm 絞り：f2 シャッタースピード：1/60 フィルム：EPT 撮影地：北海道浦河町



ないとう りつこ
 1950年埼玉生まれ。東京写真専門学校卒業後、スタジオ勤務を経て今井寿恵氏に師事。76年にAPA入選、80年にJPS奨励賞受賞。90年にJRA馬事文化賞受賞。日本写真家協会・日本写真作家協会各会員。写真集：『愛しのサラブレッド』『サラブレッドの四季』（以上グラフィック社）、『神威の星』（ぎょうせい）、『オグリキャップの子どもたち』（誠文堂新光社）、『私はサブリナ』（北海道新聞社）。



『もっと高く』母馬のまわりをぐるぐるとおどる仔馬は元気いっぱい。カメラで追いかけるのにひと苦労。
 ■カメラ：ニコンF3 レンズ：80~200mmズーム 絞り：f4 シャッタースピード：1/125 フィルム：RVP 撮影地：北海道浦河町



『走るために生まれて』若駒の走りはダイナミック。仲間と群れる姿は競馬場のレースと重なって見える。
 ■カメラ：ニコンF3 レンズ：80~200mmズーム 絞り：f5.6 シャッタースピード：1/250 フィルム：EPR 撮影地：北海道浦河町

THE
 フォトワールド
 ⑧

「サラブレッド」を撮る

大自然の四季の中で、馬たちの姿を見つめ続けたい。
 内藤律子氏〈写真家〉

サラブレッドは皆さんもご存知のように、優れた競走馬を得るために、人間が長い間交配を重ねて作り出した馬種である。そんなサラブレッドを約20年にわたって撮り続けているのが、女性カメラマンの内藤律子氏だ。内藤氏と馬との出会いは写真学校の学生だった頃に、競馬場へ課題作品の撮影に出かけたこと。その後スタジオに勤め始めた後も、旅行としては馬のいる各地の牧場を訪ねていったという。そしてある時、馬をモチーフとした写真では第一人者として知られる今井寿恵氏の作品展を見て感動を覚え、今井氏に師事してアシスタントとなり、後に自らもプロとして作品を発表するようになった。「牧場でのんびりと遊ぶサラブレッドを初めて見た時に、競馬場で見るとは全く違った魅力を感じました。『馬ってこんなに素敵な動物だったんだ』という新鮮な発見があって、それからは自然の中の馬を撮ることを目的として旅行するようにになりました。」

こう語る内藤氏は現在、「大自然の中の馬」を撮るために、競走馬の産地のひとつとして知られる北海道・日高で一年の大半を過ごしている。「日高地方は北海道の中では比較的温暖で、四季の変化に富んでいるんです。雪もそれほど多くなく春には豊か新緑に恵まれます。また数多くの牧場があり、撮影にも好



『桜のころ』北海道の桜は5月初旬。仔馬もそろそろひとり遊びする頃だ。
 ■カメラ：ニコンF3 レンズ：50mm 絞り：f4 シャッタースピード：1/125 フィルム：RFP 撮影地：北海道浦河町

都合なんですよ」と内藤氏。彼女の作品集を拝見すると、精悍なサラブレッドならではの凛々しい姿が、日高の雄大な自然の中に、いきいきと表現されている。また、「お馬の親子」という童謡があるが、まさにその歌詞を映像化したような微笑ましいシーンなども、見事にとらえられている。この地に居を構え、四季を通じて牧場の馬を追っている内藤氏だからこそ撮れる作品だと言っている。

内藤氏の通常の撮影スタイルは、カメラを2台用意してその一台には300mmの望遠レンズを、そしてもう一台には80mm/200mmのズームレンズを装着する。その理由のひとつは、牧場が広い上に馬の動きは前もって予測できないこと。シャッターチャンスだと思ってもすぐ



マミヤ7 (1995年)
マミヤ6MFの大きさ・重さを変えずに画面サイズを大きくした、手持ち撮影が可能なレンジファインダー式6×7判カメラ。画面サイズは6×7判と35mmフルパノラマで撮影できる。

戦後のカメラブームの中で、 数々のヒット製品を創出。

現在のマミヤ・オービー(株)は、もともと1940年に「マミヤ光機製作所」として設立。当時著名な写真作家であり、発明家でもあった間宮精一氏が技師長としてマミヤシックスI型を設計、マミヤの第一号機として発売されたのが始まりだ。これは6×6判のスプリングカメラと呼ばれるもので、フィルム面を動かしてピント合わせを行なうという、間宮氏が独自に考案した特殊な機構「バックフォーカシング方式」を採り入れていた。当時と

しては非常に精度が優れていたということ、一般に広く受け入れられたマミヤシックスのシリーズは、通算で約40万台を数える大ベストセラー製品となった。

こうしてカメラメーカーとして高い評価を得たマミヤは、続いて1948年のマミヤフレックスジュニアを最初とする、二眼レフカメラを発売。当時、写真愛好者の間では「二眼レフが一大ブームとなっていたが、何と云ってもマミヤの二眼レフの地位を不動のものとしたのは、1957年発売のマミヤフレックスCプロフェッショナルだろう。これは「二眼レフでは世界初となるレンズ交換方式を採用し

たもので、発売後たちまち「二眼レフのトップシェア製品に躍り出た。これ以降の機種にもレンズ交換を採り入れたマミヤは、他社製品が消えてゆく中、つい最近の90年代初頭まで二眼レフカメラを作り続けたのだ。

マミヤとしての土台を築いたマミヤシックスのシリーズが姿を消すのと入れ替わるように、ちよつと変わったカメラが1960年に発売されている。それはマミヤプレスと名づけられた6×9判の機種で、薄く真四角なボディにレンジファインダーを載せたユニークな形が特徴。「このカメラはレンズをはじめ、グリップやフィルムホルダーなども交換でき



マミヤ・オービー(株)光学機器事業本部 湯沢広史氏

るようになっていきます。当社の中判機種における「システムカメラ」という概念は、このマミヤプレスからスタートしたと言えると思います」と語るのは、マミヤ・オービー(株)光学機器事業本部の湯沢広史氏。こうした「システムカメラ」の発想を採り入れ、1970年には6×7判の二眼レフ・マミヤRB67プロフェッショナルが発売される。

システムカメラとして豊富なレンズやフィルムバック、ファインダーなどがすべて交換式になっているこのカメラは、画面の縦位置・横位置がワンタッチで切り替えられるという、当時世界でも初めてであったレボルビング機構を採用したことで知られる。そしてこの機種でも、二眼レフ製品と同様、光の内面反射を防ぎ、近接撮影を可能にする蛇腹をレンズの繰り出しに使用。ちなみに蛇腹はマミヤの伝統的なスタイルとして、現行の機種にも見ることができ

このRB67プロフェッショナルは機械制御方式のカメラだが、これを電子化したマミヤRZ67プロフェッショナルという機種が1982年に発売される。このカメラはレンズマウントの内径や、マウントからフィルム面までの距離も変更し、より高性能なレンズを使

Mamiya-OP

メーカー探訪⑦

マミヤ編

ユーザーの“信頼”に応え、“独創”を重視した製品作り。

マミヤは、その50年以上にわたる歴史の中で、実に多くの機種、様々なタイプのカメラを世に送り出してきたメーカーです。今回は、その歴代のマミヤ製品の中でも特にユーザーから親しまれ、現在も開発に力を入れている、同社の「中判カメラ」における歴史についてうかがってみました。

独自の資産を継承しながら、 分野を越えたユニークな製品を。

用できるようにしている。RZの登場により同系統の機種が2種となったが、RBのカメラボディも、この機種に慣れ親しんだ愛用者の声に応じて残す道をマミヤは選んだ。「昔からマミヤは、独創と信頼」という企業理念を持っているんです。ユニークな発想による良い製品をお届けする独創の精神。そして今まで培ってきたものを、目先の考えだけで簡単に変えたりしないことでユーザーの信頼に込めてゆく。それだけ当社が提供する製品やシステムが、プロを含めたファンの方々に浸透しているということなんです」と語るのは、マミヤ・オービー(株)東京営業所の野口耕二所長。このRBとRZ、それぞれの流れをくむ後継機は、現在でもマミヤの製品に並行してラインナップされている。

「独創と信頼の精神は、1975年発売のマミヤM645に始まる6×45判カメラにも見られる。35mmカメラ並みの機動性と大きな画面での描写力を両立させ、世界初のセミ一眼と

マミヤフレックスCプロフェッショナル(1957年)世界最初のレンズ交換が可能な6×6判二眼レフカメラ。ピント合わせはノブによるラックピニオン式の蛇腹繰り出し機構により行ない、近接撮影にも便利になっている。



マミヤ・オービー(株)東京営業所所長 野口耕二氏

して35mmユーザーからのステップアップを狙ったこのカメラは、現行の645PROに至るシリーズすべての機種に一貫して、レンズ群などが共通で使えるようになってくるのだ。

一方、根強いファンの声を大切にしているマミヤらしい機種が、1989年に発売されている。カメラ史に残る名機・マミヤシックスの現代版とでもいべき6×6判のレンジファインダーカメラ・ニューマミヤ6だ。電子化された現代的な機能にはなっているものの、その姿形や蛇腹が内蔵されている点など、オールドファンにはたまらないマミヤシックスの面影が随所に残されていた。これは手持ち撮影ができるコンパクトさと速写性を持ったカメラであったが、現行のマミヤ6MFではこうした特長はそのままに、6×6以外に6×4.5や35mmフルパノラマにも対応できる機能が加わっている。「最新機のマミヤ7では、一般ユーザーにもさらに使いやすいうように、カメラサイズはほぼ同じまま、フィルムサイズだけを6×7判に拡大しました」と説明する湯沢氏。マミヤで最初のヒット製品・マミヤシックスの発売から半世紀以上の時を経て登場したこのマミヤ7は、そのユニークな形と優れた機能が受け入れられ、最新のヒット



マミヤ6MF (1993年)
絞リ優先AEを可能にしたレンジファインダー式6×6判カメラ。6×6判以外に、6×4.5判や35mmフルパノラマ画面サイズでの撮影も可能なマルチフォーマットカメラ。



マミヤRZ67プロフェッショナルII (1993年)
時代のニーズに応じてRB67を電子化し、レンズ性能や操作性の向上が図られて1982年に登場したマミヤRZ67プロフェッショナルの後継機。



マミヤ645PRO (1992年)
電池の消費電力を大幅に節約できる、ムービングコイル式電子制御フォーカルプレキシッターを採用した6×4.5判カメラ。フィルムは120や220サイズ、35mm、ボラロイドも使用可能。



マミヤRB67プロフェッショナルSD (1990年)
縦・横位置画面をワンタッチで切り替えられる6×7判カメラ。初代機種の基本性能を受け継ぎながら、レンズマウントの口径を大きくすることで高性能レンズに対応。



マミヤプレス (1960年)
レンズ交換が可能な連動距離計付き6×9判プレスカメラ。乾板・シート・ロールなどの各種フィルムを使用でき、画面サイズは6×7・6×6・6×4.5判でも撮影可能。



マミヤシックスI型 (1940年)
ピント合わせにバックフォーカシング方式(距離計と連動してフィルム面が動く方式)を採用した、6×6判スプリングカメラ。マミヤの第一号機として間宮精一氏が考案。

「今後も、今まで構築してきたシステムを引き継ぎながら新しさを加え、さらに発展させてゆかなければなりません。そのためには当社で手がけているフィッシングやゴルフといった他の部門との融合も図り、例えば先頃発売された軽量なカーボン製の一脚のような写真用品も含め、他社とは違った独自の製品作りを考えてゆきたいと思えます」と野口氏は語る。こうしたマミヤ創業以来変わらない「独創と信頼のポリシー」が、今でも多くのプロや根強いファンを惹きつけているに違いない。

接写を知って、写真の楽しさを広げよう。

最近花を撮影する方が増えているようです。四季折々に姿や色合いを変えてゆく花は、よく女性にたどられますが、花の撮影のコツもまた、女性の撮影と同じです。美しいものをより美しく撮ること。今回のステップアップレッスンでは、こうした花の撮影に多く見られる接写について、アドバイスをいたします。

接写に必要な機材

接写に用いるカメラは一眼レフがよいでしょう。もちろんコンパクトカメラでも接写は

可能なのですが、バックのボケや被写界深度(ピントの合っている範囲のこと)をコントロールすることを考えますと、一眼レフの方が有利です。また、中判以上のカメラも適しています。

レンズは、接写がはじめての方にはマクロ機構がついた28~70mmのズームレンズをお薦めします。このレンズを用いると被写体に40~50cmまで近づけることができ、被写体の実際の大きさの約1/4倍まで、クローズアップした撮影が可能です。

それ以上の倍率、たとえば被写体を実際の大きさのままに撮影する場合は、マクロレン

ズを用いるか、レンズにクローズアップレンズを装着する必要があります。マクロレンズは一般的には100mm程度のレンズがよいと思います。クローズアップは大きくなればよい、というわけではありません。たとえば50mm程度の短焦点レンズを用いた場合、レンズの先端と被写体までの距離が極端に短くなってしまうため、アングルが制約されたり、ストロボの使用も難しくなるのです。

また、接写の場合では、ほんの些細な手ブレやピントのズレも、仕上がりの写真に反映されますので、三脚は必須となります。花には背の低いものが多いので、ローアングルに



絞り値による背景変化を確認してください。上からF4, F8, F16。

対応したものがよいでしょう。求めるイメージによっては、被写体にやわらかさを加えるソフトフォーカスレンズや各種フィルター、また、邪魔な影を消すためのレフ板や、バックに用いる色ボードなどの使用も考えられますが、これらの中にはちよつとした工夫で用をなすものもあります。たとえばレフ板はアルミホイルや白い紙で代用することもできますし、色ボードは絵の具やペンを塗って簡単に自作することもできます。こうした工夫も写真の楽しさを増してくれます。

ピントの合わせ方が重要

接写の場合は極端に被写界深度が浅くなります。最初から被写界深度が浅い望遠レンズはさらに浅くなりますし、深いはずの広角レンズでも背景はボケてしまいます。このため、通常の撮影のような絞り込みの効果はかなり薄くなります。したがって、ピントはより正確に合わせなければなりません。

接写におけるピントを合わせる手順は、フレーミング(画面構成)を決めてから、まず、だいたいのピントを合わせます。この時、AFカメラであってもマニュアルモードにセットしてピントを合わせるようにしてください。その後、カメラを持ったまま体のあるいは三脚を前後に動かしながらピントの合う位置を

探します。

接写の場合は同じ構図で同じ花を撮影しても、ピントの位置が変わると仕上がる写真の印象は大きく変化してしまいます。くれぐれも慎重にピントを合わせるようにしましょう。意味のない背景はボカして整理しますが、一口にボカすと言っても、その度合いは様々です。背景が認識できてこそ、その被写体が生きてくる、という例も少なくありません。こうした場合には完全にボカして背景を消してしまうのではなく、ボケの中に、確認でき

る程度に背景を残す、ということも考慮しましょう。

また積極的にボケを利用することもあります。たとえば被写体の手前の障害物をボカして画面に入れることにより、奥行きのある作品にすることもできます。接写では、画面上でボケる範囲も大きくなるため、時にはボケを写す気持ちでファインダーを覗いてみてください。ボケが被写体を一段と生かしてくれたり、あるいは演出してくれたりすることもあるのです。

露出補正を忘れずに

通常の撮影では適正露出はフィルム感度に合った露出を指します。ところが接写の場合には、同系統の色が画面を覆うため、こうしたカメラまかせの露出で撮影すると、なかなか思った色が出ません。たとえば画面一杯にク



レイノックスのマクロ探検隊CM-2000で撮影。



三脚でしっかり固定して撮影します。

ローズアップした白い花を撮影した場合、灰色がかってしまうのです。これはカメラの露出が18%のグレーをベースに適正露出を決めているためで、黄色や白といった明るい色合いの花を撮影する場合には、露出をプラス側に補正する必要があります。

逆に暗い色の花を撮影する場合は露出をマイナス側に補正します。露出の補正は被写体の色だけで決定するわけではありません。たとえば逆光のような明るい背景で撮影する場合はプラス側に補正しますし、森のように暗い背景の場合はマイナス側に補正します。また、赤や緑の色に深みを出したい場合はプラス側に補正します。

このように、露出補正はケース・バイ・ケースですし、どちらとも判断がつかなくなるも

の多少なくありません。自信がない場合は露出を少しずつ変えて何枚も撮影するようにしましょう。また、AF一眼カメラのスポット測光などの機能を利用してみるのもよいでしょう。

花の撮影には絶好のシーズンになりました。接写は広い世界を写し取る風景写真と違い、狭い小さな世界を写真に封じ込めます。それだけに、風景写真とは異なる様々なテクニクも必要とされるのです。時には、道端に咲く小さな花にレンズを向けて、シャッターを押してみたいのがでしょう。あるいは新しい写真の魅力と出会えるかもしれません。それはまた、次の風景写真を撮る時の、新たなアイデアを提供してくれるかもしれません。

RICOH

レンズの力。リコーGR1誕生。



GR1

ボディカラー：ブラック/シルバー(サイズ：117mm×61mm×26.5mm)

メーカー希望小売価格 GR1本体(革ケース・ストラップ込)・・・¥90,000(税別)
デト付・・・¥100,000(税別)

リコーカメラお客様相談窓口
リコーカメラについてご意見・ご希望がございましたら下記までご連絡ください。
〒104 東京都中央区銀座6-14-7 株式会社リコー パーソナル事業部
0120-007962
●受付時間 月曜から金曜/9:30~18:00 土曜/9:30~15:00
●日曜・祝日はお休みさせていただきます。

OLYMPUS
人から発想します。オリンパス



世界で愛されて700万台。
あのミューシリーズに、
美しいデラックス、登場。

美しさと手にやさしくフィットする小型軽量ボディで、世界中の人たちから愛されているミュー。多彩な機能を満載し今、さらにエレガントな進化を遂げました。

●生活防水 ●高精度マルチAF ●多彩なフラッシュ機能 ●ハイブリット非球面レンズ ●パノラマ機構など多機能が満載です。



38~105mm 3倍ズーム
**U[mju:]ZOOM
105 DELUXE**
メーカー小売希望価格
¥54,000 (リモコン・ケース・ストラップ付)



35~70mm 2倍ズーム
**U[mju:]ZOOM
70 DELUXE**
メーカー希望小売価格
¥40,000 (リモコン・ケース・ストラップ付)

さらにエレガントに、
美しくなったスモールビューティ。登場。

PENTAX



TIPA "ザ・ベスト・コンパクトカメラ"
オブ・ザ・イヤー '96-'97 受賞



世界最小最軽量 3倍ズーム
ESPIO 115M

希望小売価格 (税別) 52,000円
※全ての3倍ズームカメラの中で世界最小最軽量。9月1日現在。



EISA "ヨーロッパカメラ"
オブ・ザ・イヤー '96-'97 受賞



ダイヤル式世界最小 超軽量AF一眼
MZ-5

ボディ (ブラック/シルバー) 希望小売価格 (税別) 73,000円
FAズーム 28~70/4AL付 希望小売価格 (税別) 103,000円
※レンズ交換式35mmAF一眼レフカメラの中で世界最小。9月1日現在。

ヨーロッパ2大カメラ賞受賞

●カタログのご請求は、〒100 東京都千代田区永田町1-11-1 ペンタックス販売株式会社宣伝部まで機種を明記の上ハガキでお申し込みください。
旭光学工業株式会社・ペンタックス販売株式会社

SIGMA

この視点、この1本。



NEW
APO 135-400mm F4.5-5.6 ASPHERICAL RF

APO Zoom Lenses

狙った被写体を目の前に近づける、使用領域の広い望遠ズーム。

APO 170-500mm F5.0-6.3 ASPHERICAL RF

500mmの超望遠までをカバー。あらゆる距離の被写体に対し、鮮明な描写性能を発揮。フォーカシングの際にレンズの先端が回転しないため、偏光フィルターの使用もスムーズ。

●AF・MF希望小売価格 (税別): 85,000円、
ケース、フード、三脚座付

APO 135-400mm F4.5-5.6 ASPHERICAL RF

望遠領域で使用頻度の高い135mm~400mmをカバー。新開発5群移動式ズームと複合非球面レンズが、全撮影領域でハイコントラストな描写を実現。着脱式三脚座を装備。

●AF・MF希望小売価格 (税別): 75,000円、
ケース、フード、三脚座付



NEW
APO 170-500mm
F5.0-6.3
ASPHERICAL RF

お問い合わせはお気軽に、株式会社シグマ 〒201 東京都狛江市岩戸南2-3-15 tel. 03 (3480) 1431まで。

準特選 賞金10万円と楯

リバーサルプリント

紅葉の部 <4名>



「巨木」塚本潤一(岩手県岩手郡)、「紅葉と滝」望月織二郎(長野県松本市)、「氷点華」松浦浩(福井県武生市)、「錦織」丸山トシコ(大阪府吹田市)

一般の部 <4名>



「紅葉の散歩道」大松利生(岡山県倉敷市)、「秋のうす」阿部信夫(広島県福山市)、「谷間のコスモス」太田まり(熊本県熊本市)、「さむい朝」片岡栄一(福岡県福岡市)

ネガカラープリント

紅葉の部 <4名>



「激流と紅葉」竹野一郎(新潟県西蒲原郡)、「初霜」末本実(広島県広島市)、「雅(みやび)」杉本福(徳島県徳島市)、「鹿屋の紅葉」満尻和幸(福岡県久留米市)

一般の部 <4名>



「白い秋」竹吉勇(石川県金沢市)、「落葉」大鴻勝美(東京都豊島区)、「あけび」米山進(神奈川県南足柄市)、「ルリ色の秋」柏村久美恵(山口県小野田市)

審査員特別賞

全部門共通 賞金5万円と楯 <15名>



「舞うが如く」吉野浩司(埼玉県熊谷市)、「秋の彩り」佐藤忠嗣(三重県四日市市)、「晩秋」上山真一(大阪府泉佐野市)、「秋彩」橋本修(奈良県大和高田市)、「清回季」田中良弘(岡山県倉敷市)、「秋」牧俊孝(岡山県岡山市)、「流彩」宮西幸一(香川県高松市)、「落葉の彩」大宿有三(愛媛県松山市)、「光彩」近喰則夫(福岡県宗像郡)、「秋の渓谷」曳野利(福岡県北九州市)

入選 賞金1万円と楯 <リバーサルプリント 紅葉の部35名・一般の部30名> <ネガカラープリントの各部20名>

紅葉の部

北海道 吉田義則(小樽市)「錦秋」宮城県 石川 宏(古川市)「秋の栗駒山」新潟県 藤井正樹(南蒲原郡)「もみじの絨毯」山田浩之(上越市)「隆隆」清水定雄(中頸城郡)「瀑景秋彩」高橋規之(豊栄市)「秋の記念に」石川県 須釜 聡(金沢市)「渓谷の秋」長野県 林部正彦(更埴市)「雨上り」群馬県 中取重太郎(太田市)「小中・大滝の紅葉」千葉県 茂泉隆二(市原市)「秋彩」東京都 渡辺 守(板橋区)「秋深まる頃」静岡県 大野 勝(清水市)「安倍峠の夜明け」愛知県 榎本定行(知多市)「ドウナンツツジ色づく」三重県 清水 匡(四日市市)「鏡池の虹」川西理文(上野市)「紅葉露景」大阪府 小松孝文(枚方市)「紅葉の美」奈良県 瓜坂元一(大和高田市)「秋色」本塚勝康(橿原市)「紅葉の道」吉田芳雄(高市郡)「紅葉に染まる道」岡山県 明楽俊彦(津山市)「秋」大屋雅男(倉敷市)「渓谷錦秋」

リバーサルプリント

広島県 伊勢屋 昇(東広島市)「晩秋」鳥取県 山崎正二(鳥取市)「谷間の彩」徳島県 岩崎英昭(板野郡)「霧の中の紅葉」愛媛県 野村精一(伊予三島市)「虹と紅葉」内藤隆雄(西条市)「朝露」高知県 藤原孝一(土佐郡)「光彩」宮崎勝吉(土佐市)「流雲」福岡県 池上雄司(久留米市)「紅葉の滝」永露憲治(福岡市)「雪景色」樋口一雄(福岡市)「冬到来」花田太郎(北九州市)「紅色露」板橋秀幸(北九州市)「秋の階段」川島典明(京都郡)「紅葉の朝」熊本県 山下弘明(熊本市)「緑仙映秋模様」

一般の部

秋田県 五十嵐清光(平鹿郡)「秋の味覚、なごこ」宮城県 佐藤幸弥(仙台市)「池塘の印象」長野県 丸山健二(南佐久郡)「高原森林」青木正義(上田市)「枯蓮」丸山潔高(松本市)「晩秋の朝」塚本静子(松本市)「おいしい秋の色」埼玉県 嶋田政彦(比企郡)「秋風」町田 全(比企郡)「雲とコスモス」阿瀬健一(所沢市)「無題」

ネガカラープリント

紅葉の部

北海道 小田嶋清幸(苫小牧市)「小秋日和」岩手県 伊久美博明(静岡市)「雲」三重県 田中勝利(鈴鹿市)「秋桜」兵庫県 山口輝雄(宝塚市)「菊薫る」奈良県 森川光章(磯城郡)「晩秋の光景」平尾吉廣(奈良市)「そば畑」岡山県 横山敏志(倉敷市)「秋一隅」広島県 藤井健蔵(福山市)「ほほえみ」池田 剛(福山市)「白い花」田中隆幸(広島市)「暮色」鳥取県 基常忠男(米子市)「小菊」島根県 井上健二(松江市)「秋の波間に」奥田 誠(松江市)「ほほえみ」山口県 柏村晴男(小野田市)「秋霜」愛媛県 難波江成明(西条市)「晩秋」福岡県 福永千修(福岡市)「朝の瀑布院」毛利高就(田川郡)「露花野」大分県 甲斐慎一(大分市)「秋桜平野」長崎県 山口芳明(佐世保市)「初秋」熊本県 遠山節雄(熊本市)「秋色」

一般の部

石川県 福島健介(小松市)「山野の宝石」長野県 大熊政彦(飯山市)「柿晩秋」埼玉県 阿部 孝(鶴ヶ島市)「ころ柿干し」千葉県 丹羽明仁(小牧市)「ソバの花の咲く頃」岐阜県 田中鉦三(中津川市)「チニグルマ」大阪府 徳永直美(大阪狭山市)「夕焼け」兵庫県 田中広子(宝塚市)「ポーズ」京都府 辻井 武(京都市)「山のいもの実」奈良県 青木竹二郎(奈良市)「コスモス」岡山県 林 信孝(岡山市)「秋の陽光」藤原繁樹(倉敷市)「彩」広島県 佐屋卓志(府中市)「赤き雲海に陽は登る」鳥取県 松本博久(倉吉市)「残り柿」山口県 広田和夫(宇部市)「僕が Катт 君」徳島県 中垣 節(徳島市)「赤いセーター」福岡県 村山繁美(粕屋郡)「秋色」

第5回「全国「秋の彩」フォトコンテスト」入賞作品発表!

応募総数 約14,000点

第5回「全国「秋の彩」フォトコンテスト」に、今年もたくさんのご応募ありがとうございました。約14,000点の応募総数の中から見事に入賞された方々の作品を、ここに発表させていただきます。

主催:カメラのキタムラ 協賛:富士写真フイルム株式会社 キヤノン販売(株)、ミノルタカメラ販売(株)、ニコンカメラ販売(株)、ペンタックス販売(株)、オリンパス販売(株)、京セラ(株)、(株)リコー、(株)シグマ、(株)タムロン、トキナー光学(株)



総評:今回は昨年よりも応募総数が大幅にアップした分、数の多さに比例した質の高い作品が多く寄せられ、特にリバーサルプリントで良い作品が目立ちました。格調高い「日本の秋の美」というものが見事に表現され、見る者を飽きさせず、「日本に生まれて良かった」という感動を与えてくれる作品が集まり、今回のコンテストも大成功だったと思います。

審査員 竹内敏信氏

1943年愛知県生まれ。名城大学工学部卒業。愛知県庁勤務を経てフリーとなり、風景写真の第一人者として活躍。主な写真集:「天地光響」(講談社)、「欧羅巴」(小学館)、「花祭」(誠文堂新光社)、「光と風のヨーロッパ」(玄光社)、「写真・山頭火」(春陽堂)、「櫻」(天地啓聞)(以上出版芸術社)など。



グランプリ 全部門共通 賞金30万円と楯 <1名> 「秋の溪流」岡村文人 (北海道帯広市)

寸評:赤く太陽に照らされた紅葉の鮮やかさと、やや青みがかった溪流との対比が、日本の秋を象徴する格調と美を醸し出しています。動きが良く表現され、ピントも適切で細かな部分までいねいにとらえられた作品です。

おかわら ふみと 1932年神奈川県生まれ。北海道帯広市に移り住んでから、地元の写真サークルを拠点に、風景や人物を約20年撮り続ける。以前にもキタムラの全国桜前線・紅葉前線フォトコンテストで3回の入賞実績をもつ。



特選 賞金20万円と楯

リバーサルプリント

紅葉の部 <2名>



「秋景」榎野村 孝(広島県広島市) 輝かしい谷川の紅葉を的確なフレーミングでとらえています。「小雨の涸沢」宮崎啓一(福岡県福岡市) 奥行きと広がりを持ち、美しく完成された構図が見事です。

一般の部 <2名>



「晩秋の水面」大滝 登(新潟県新潟市) 水面に浮く蓮の殻の、一層一層の質感描写が面白い作品です。「霧氷咲く」大野和子(岡山県都窪郡) 草原に昇る太陽を入れた構図が大膽な、力強い作品です。

ネガカラープリント

紅葉の部 <2名>



「落葉」澄川真直(大阪府堺市) 中判カメラで一枚一枚丁寧に撮られています。「清流の彩り」渡辺 昇(岐阜県美濃加茂市) せせざとカエデを美しいライティングでとらえています。

一般の部 <2名>



「朝のサザンカ」小室三三雄(東京都足立区) サザンカの花の繊細な色合いが表現されています。「風に舞う」河合末海(三重県鈴鹿市) 風に揺れる花の動きが感じられ、形も色彩も美しい作品です。

カメラバッグ特集

カメラや機材を衝撃から守り、小物をきちんと整理できるカメラバッグ。
今回は写真撮影の心強い味方、カメラバッグを特集しました。



TENBA
■プロシリーズP-995

写真が好きになればなるほど、撮影機材は少しずつ増えていきます。最初はカメラのボディが1台、レンズも1本。それがやがてレンズが2本、3本と増えてゆき、ボディも2台に。フィルターを購入し、三脚も、となると、機材だけでもひと荷物です。こうなるとカメラバッグは不可欠なものとなってきます。

カメラバッグのメリット

「良いカメラバッグを持っているからといって、良い写真が撮れるわけではない」とお考えをお持ちの方もいらっしゃるのではないで

カメラバッグにはアルミ製のハードタイプ、布製のソフトタイプといったタイプの別があるほか、持ち方の違いによってもポシェットタイプ、手提げタイプ、ショルダータイプ、ザックタイプ等の様々な種類があります。最近では素材や色も多様になり、ファッション性をも考慮した製品も多く見かけられるようになりました。カメラバッグだからカメラを入れる、という既成概念から離れ、たとえば旅行バッグ、あるいはビジネスバッグとして考えても見劣りはありません。カメラバッグと兼用の多用用途バッグとして検討してみるのもよいかもしれません。

カメラバッグ選びのチェックポイント

カメラバッグを上手に選ぶには、まず何よりもバッグが十分に衝撃に耐え、中の機材を護ることができかどうかを確かめてください。もちろん、ハードタイプの方が機材の保護という面では優れているのですが、ソフト

カメラバッグの様々なタイプ

タイプか。しかし、カメラバッグは、まさに写真を撮る方が持つことを前提に作られたバッグです。単にカメラを衝撃から保護するだけでなく、様々な撮影状況で考慮した上で、必要なものをすぐに取り出せるように、機能性も十分に満たすような工夫が随所に加えられているのです。カメラやフィルムをすぐに取り出せる、ということは、シャッターチャンスに遭遇したときに、心強い援護となってくれます。カメラバッグにはこのように様々なメリットがあるのです。

カメラバッグの様々なタイプ

カメラバッグにはアルミ製のハードタイプ、布製のソフトタイプといったタイプの別があるほか、持ち方の違いによってもポシェットタイプ、手提げタイプ、ショルダータイプ、ザックタイプ等の様々な種類があります。最近では素材や色も多様になり、ファッション性をも考慮した製品も多く見かけられるようになりました。カメラバッグだからカメラを入れる、という既成概念から離れ、たとえば旅行バッグ、あるいはビジネスバッグとして考えても見劣りはありません。カメラバッグと兼用の多用用途バッグとして検討してみるのもよいかもしれません。

タイプと比べて重量が重く、持ち運びにも不便になります。外部からの衝撃ばかりではなく、内部で機材同士がぶつかって壊れてしまうことも、往々にして起こります。これを避けるためにカメラバッグには中仕切りがあるのですが、この中仕切りがしっかりとないと、小さな機材が仕切りを越えて別の枠へ移動してしまうこともあるのです。これは機材を破損させる原因にもなりますので注意してください。次に自分の撮影のスタイルを考えます。アウトドアの撮影が多いようでしたらザックタイプの方が疲労も少なく、両手も自由になるので便利です。また、天候も考慮して、防水加工の施してあるものを選ぶようにしましょう。泊まりがけの撮影が多いのであれば、宿泊用の道具と撮影機材を区別して収納できる2段式がよいでしょう。背中の汗対策もチェックポイントの一つです。汗が背中に溜まること、不快であるばかりではなく、風邪を引く原因にもなりますので、素材や構造の確認を忘れないようにしましょう。

シャッターチャンス重視するのであれば、手持ちやショルダータイプの方が、すぐに取り出せるので有利です。また、ポケットが多いとフィルム等を簡単に取り出せて便利なのですが、ここで注意しなければいけないのは、ポケットの開閉です。片手で取り出せるかどうかを確認してください。見落としがちなのが、バックポイントです。

バッグの大きさは、携帯する機材の量によって決まります。レンズはどのサイズのものなのか、複数なのか。三脚の大きさも忘れな

楽しく役に立つフォトライフ情報がいっぱい！ カメラのキタムラ ホームページのご紹介



URL(インターネット・アドレス) <http://www.kitamura.co.jp>

カメラのキタムラでは、写真やカメラの楽しさ・面白さを多くの方に知っていただくために、インターネットのホームページ「キタムラ エキスプレス」を昨年12月から開設しています。得ずるフォトライフ情報や、家にいながらにしてショッピングができるコーナーなど皆様から多くのご利用をいただいておりますが、このたびその内容が、ご好評につき一層グレードアップいたしました。

このホームページでは毎週、新着情報を提供しています。原則的には毎週末に更新していますが、ビッグニュースが入った時にはいつでも即座にお伝えするようにしていますので、見るたびに新しい情報に出合えます。新しい「キタムラ エキスプレス」の主な内容を紹介します。

新製品やイベント・撮影地などの最新情報

★ネッターニュース 最新製品紹介、撮影会や写真展の告知、主なフォトサロンの催し、写真関連のショー(カメラショー・用品ショー・デジタルショー・ビジネスショーなど)の日程など幅広くお伝えしています。「撮り見ごろ」コーナーでは、桜や紅葉など季節ごとの風景や、また祭や行事なども含め、その時々撮影に適している場所を選定して、毎週リアルタイムの情報を提供しています。撮影地の役所などでホームページを開設している場合、そちらへのリンクも付いています。

誰にでもわかりやすい撮影&購入ガイド

★ネッター撮影・購入ガイド 購入ガイド

イドのコーナーでは、特定アイテムの商品一覧表や仕様の見方を掲載し、お客様が商品を購入する際に選びやすいようにガイドしています。また、フォトテクニクスのコーナーでは、「夜間撮影」「花の撮り方」といった撮影技術をやさしく解説しています。

★ネッターショッピング 「トクとくイッピン」のコーナーでは、今話題の商品を格安で提供しています。またキタムラで実施しているセールもご紹介していますが、より多くの皆様にご利用いただけるよう、今後ますます内容の充実を図ってゆく予定です。

知って得するキタムラからのお知らせ

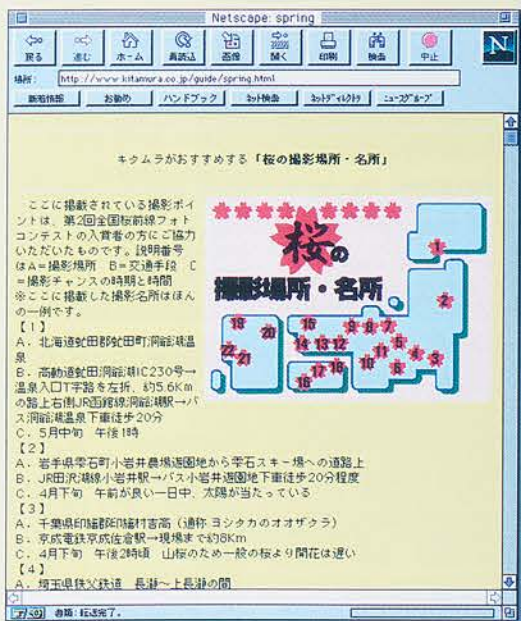
★ネッターギャラリー 2 1996.12.1 ニュース スペシャル ギャラリー 撮影ガイド ショッピング

★ネッターギャラリー 2 1996.12.1 ニュース スペシャル ギャラリー 撮影ガイド ショッピング

このほかにもフォトライフに役立つ情報がいっぱい！これからも一層、各コーナーの内容を充実させ、また、新設コーナーも作っていきますので、どうぞご期待ください。

★家庭のパソコンをインターネットに接続されている方は、ぜひアクセスしてみてください。なお「キタムラ エキスプレス」では、皆様からのご意見、ご質問、写真提供などの投稿を歓迎いたします。インターネットを通じてあなたの声や作品を、世界に向けて発信してみませんか？

メールアドレス info@kitamura.co.jp



株式会社ケンコー



プロの厳しい目で鍛えられ、全世界で高い評価を誇るタムラック

タムラックとは

もともと野生動物の撮影時に便利なカメラバッグとして開発された「タムラック」のブランド名は、アメリカ原野に群生する「タマラック」(アメリカカラマツ)にちなんだものです。その製品群はアメリカ・ヨーロッパで高い評価を得て、世界の「tamrac」として現在の地位を確立し、不動のものとしています。

タムラック製品の特長

雨・ほこり・砂から機材を守るための3重の保護機能による優れた耐久性。また、ポケットや留め具にも多くの特許取得の工夫がなされ、状況に応じて収納したものを即座に取り出せるようにデザインされているので、瞬時のシャッターチャンスも逃しません。様々な撮影目的別に合わせて多種のアイテムをラインアップしています。

■プロシステム14

35mmも中判カメラも収納可能。大きなストロボや長い望遠レンズはバッグの裏側に収納できるなど、すべての撮影機材を持ち運べるようになっています。



内寸：46×25×23cm
重量：2.318kg
カラー：黒、グレー、濃紺

■コレスポンデント8

外側は耐久性に優れたバリスティックナイロン素材を使用。内部は6つの機能ポケットで整理され、レンズを装着したままのカメラを2台持ち運べるスペースが確保されています。



内寸：30×17×20cm
カラー：黒、カーキ色

■デイバック

レンズとモータードライブを付けたカメラ1台をそのまま収納。3〜4本の交換レンズほか機材類も入ります。背負っても重量が分散され、安定性に優れた一番人気の製品。



内寸：29×17×18cm
全長：37cm
カラー：黒、グレー、緑

■スポーツコンパチ

カメラ1台と2〜3本のレンズ及びストロボを収納できます。フロントとトップにはポケットがあり、フィルムなどの小物が入ります。



内寸：24×17×17cm
重量：0.539kg
カラー：黒、グレー、濃紺、緑

■コンパクトズームバック

カメラに長さ14cmまでのレンズを付けたまま収納。ファスナー付きの大きなフロントポケットには、ストロボやフィルムなどの小物類を収納。



カラー：黒、グレー、濃紺、緑

■プロデイバックコンパチ 新製品

大型サイズの35mmカメラ2〜3台とズームレンズ、ストロボ、アクセサリなどが入ります。デイバックとショルダーバッグ、2通りの使い方ができます。



内寸：28.6×12.7×26cm
重量：1.45kg
カラー：黒、グレー、フォレストグリーン

■ローリングフォトバッグバック 新製品

車輪とグリップハンドルが付いているので、多くの機材でも楽に運べます。階段などでは、収納されているバックパケルトを使って背負うこともできるプロ用大型バッグ。



内寸：36×18×48cm
重量：4.76kg
カラー：黒

■コンパクトフォトデイバック 新製品

人気製品のデイバックを、より持ち運びやすくコンパクトにしたタイプ。安全性や機能性の面でも優れています。



内寸：20.3×15.2×14.6cm
重量：0.71kg
カラー：黒、グレー、フォレストグリーン

※写真中のカメラバッグ本体以外は、商品に含まれません。



ソフト&スポーティ 世界のプレスフォトグラファーに選ばれたドンケ

ドンケとは

報道カメラマンであったジム・ドンケが、たとえ走りながらもカメラを取り出して写せる機動性と柔軟さをもったカメラバッグとして1976年に制作したのが「ドンケF2」の原型であるインクワイヤーバッグでした。ドンケの製品は、現在では報道用に限らず多くのカメラマンに愛用されています。

ドンケ製品の特長

撥水加工を施したソフトなコットン製のラグキャンバスを使用。ハードワークに耐えるために、生地をつなぎ目や金具部分など重量のかかる箇所には特に頑丈な縫製を施しています。スナップ金具は使いやすく、バッグから機材を安全に取り出せるように工夫がなされています。



■F-2

各国で最も愛用されているスタンダードモデル。フロント・サイド・体側のオープンポケットなど収納スペースは12。4つのコンパートメントを持った中仕切りと、取り外し可能なパッド入り底板付。35mmカメラ1〜2台と広角・望遠レンズなど基本的な機材一式が収納可能。

外寸：40×17×23cm
内寸：35×15×22cm
重量：1.2kg
カラー：ブラック、タン、ネイビー



■素材

柔らかいコットン仕上げに加え、防水策として用途に応じた高度な撥水加工がなされています。



■縫製加工

重量のかかる箇所には丈夫な縫製と頑丈な金具を用いるなど、使い手の側に立った製品づくりがなされています。



■ショルダーストラップ

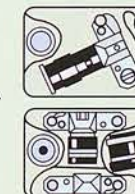
ストラップには肩に負担をかけない天然ゴムを縫い込むなど、随所に細かな配慮がなされています。



■F-3X

機動性と携帯性を重視したコンパクト・バッグ。前・背面にオープンポケット付。35mmカメラ2台のほかに数種のレンズ、用品類が収納でき、タウンバッグとしても最適。

外寸：34×18×26cm
内寸：24×14×22cm
重量：1.0kg
カラー：ブラック、タン、ネイビー



■エメラルド

ドンケ・カメラバッグの中でも人気のアイテム。アメリカ東海岸のトラディショナルなエメラルドグリーンの色調、上質なブラウンレザーのトリミングで一段とおしゃれなバッグ。ID (ネーム)ホルダー付。

〈F-2E〉
外寸：40×17×23cm 内寸：35×15×22cm
重量：1.2kg



■バリスティック

防水性が高く、耐久性の強いバリスティック・ナイロンを使用。体に当たる部分はドンケ独自のコットン地で、ソフトな感触。

〈F-2BB〉
外寸：40×17×23cm
内寸：35×15×22cm
重量：1.2kg
カラー：ブラック

〈F-6BB〉
外寸：32×17×21cm
内寸：30×14×18.5cm
重量：0.8kg
カラー：ブラック



■F-7

ドンケ・バッグの中で最も大きいモデル。コンパートメントを標準装備し、バッグ背面には3段階に位置が調整できるウエストストラップ付。収納スペースは14。

外寸：48×17×31cm
内寸：35.5×16×28cm
重量：2.0kg
カラー：ブラック、タン



■F-802

カメラバッグ以外にオフィス用としても使え、ラップトップコンピュータ用にも最適。サイドと底にパッド入り。前面に大型ポケット2ヶ、その後と背面にもオープンポケットがあります。F-2への取り付けも可能。

外寸：38.5×13×32cm
内寸：38×7×31cm
重量：1.1kg
カラー：ブラック、タン、ネイビー



※写真中のカメラバッグ本体以外は、商品に含まれません。

最高の作品を求めるように、高品質なカメラバッグを追求するf.64

f.64とは

1920~30年代にアメリカで活躍したカメラマン・ウエストンが、精妙な描写を得るためにレンズの絞りをf64で撮影したことにちなみ、著名なカメラマンが集まって作った「f.64グループ」。そのメンバーが最高の作品を追求したことから、高品質を追求するこのカメラバッグも「f.64」と名づけられました。

f.64製品の特長

スムーズで耐久性に優れたナイロンコイル採用のジッパーにより、確実な開閉が得られます。内部素材には1/2インチの高密度ペロアフォームを採用し、機材を衝撃から守ります。さらに防水性、断熱性、耐久性にも優れ、シンプルで上品なデザインです。

■ f.64 SCX

35mm一眼レフ（レンズ付）2台、ストロボ、露出計などの収納が可能。保護用パーティション、出し入れが簡単な全開ポケット、取り外し可能なサイドバッグ、三脚固定用ストラップ付など機能満載のバッグ。



内寸：39×17×23cm
重量：2.20kg
カラー：ブラック、グレー、ブルー

■ f.64 SCM

SCXよりひと回り小型サイズで、基本仕様はSCXと共通。幅広いユーザーから評価を得ており、もっともポピュラーなタイプ。



内寸：30×13×23cm
重量：1.42kg
カラー：ブラック、グレー、ブルー

■ f.64 SC

SCXと共通の仕様に加え、本格的なウエストベルトが内蔵されており、ウエストバッグとしても使用可能。



内寸：27×14×20cm
重量：1.35kg
カラー：ブラック、グレー、ブルー

■ f.64 MFX

サイズ・仕様はSCXと共通ですが、パーティションの内容が異なります。レンズサポート用などが省かれ、収納スペースをアップ。パーティションは自由に移動でき、中判カメラにも適したモデル。



内寸：39×19×23cm
重量：2.20kg
カラー：ブラック、グレー、ブルー

■ f.64 SU

35mm一眼レフを縦に収納し、厚みを抑えた設計。フロントポケットは全開し、細かい物の出し入れに便利。



内寸：20×10×16cm
重量：0.46kg
カラー：ブラック、グレー、ブルー

■ f.64 SG

35mm一眼レフのミニマムシステムをコンパクトにまとめられるバッグ。裏側に収納された本格的なウエストベルトで、ウエストバッグとして使用可能。



内寸：20×15×20cm
重量：0.67kg
カラー：ブラック、グレー、ブルー

■ f.64 FPX

ウエストタイプのカメラバッグ。パーティションを工夫し、最適なバランスで使用できることがポイント。サイドのメッシュポケットは手探りで簡単に小物の出し入れができます。モーターサイクル、マウントバイクなど多用途な使用が可能。



内寸：34×14×14cm
重量：0.81kg
カラー：ブラック、グレー、ブルー

■ f.64 BP

バックパックで、4×5カメラとレンズも収納できるタイプ。バックパックとして背負えるのに加え、手提げとしても使用できる機能性を持っています。大型ながら厚みを抑え、使用時の疲労度が軽減できるように設計されています。



内寸：45×32×15cm
重量：0.92kg
カラー：ブラック、グレー

■ f.64 LBX

携帯用のコンピュータやポートフォリオファイルなどの収納に最適なブリーフケース。重量物でも手が痛くならないウレタン使用のソフトなハンドル、ショルダー使用もできる便利な機能性。大型ポケットで移動中でも素早く出し入れができるマルチタイプ。



内寸：41×9(13)×30cm
重量：1.65kg
カラー：ブラック

※写真中のカメラバッグ本体以外は、商品に含まれません。

最高峰のカメラバッグとして強靱性、信頼性の正統を支え続けるテンバ

テンバとは

TENBAはチベット語のBuddha Sakya Tenbaからの由来で、強靱、正直、信頼という意味です。この言葉に沿って制作されたTENBAのバッグは、便利性と価値の高い製品と世界中の人々から評価・愛用され、カメラバッグの正統を支えています。

テンバ製品の特長

各種のバッグとも強度のある素材を使用するとともに、目的に合わせて万全の防水加工が施されています。アメリカ軍隊のバッグのもと、同じ強度を持つ金属を用いたDリングが随所に取り付けられ、ウエストベルト・三脚ベルトによって各種アクセサリーがセットできるようになっています。

■ プロシリーズP-995

プロバッグシリーズでは最大のキャパシティを持ち、フィールドタイプの4×5カメラも収納が可能です。大型ポケットには35mmフィルム40本、中仕切りも機能性を重視した設計です。



内寸：40.5×23.5×17.523cm
重量：1.75kg
カラー：ベージュ、ブラック、グレー



■ トラベラーシリーズP-454

カメラバッグとしての基本機能にファッション性をプラスしたシリーズ。35mm一眼レフ2台、レンズを収納できるビッグキャパシティ。



内寸：30.5×21.5×16.5cm
重量：1.15kg
カラー：ブラック



■ トラベラーシリーズP-415

便利でハイセンスな多目的バッグ。カメラバッグ以外にブリーフケース・旅行バッグなどの用途にも最適。小物用ポケット17個、幅調整ジッパー付。



内寸：34×28×10(17.5)cm
重量：1.0kg
カラー：ブラック



■ トラベラーシリーズP-404

メインコンパートメントは着脱自在の大型仕切りによって、スッキリ、キッチリの高収納性。安全性の高い万全なカメラバッグ。



内寸：28×21.5×12.5cm
重量：0.65kg
カラー：ブラック



■ プロトラベラーシリーズP-695

プロユース向けのスーパーバッグ。数多く収納できるビッグキャパシティ、革製ハンドグリップ、レンズを装填したまま収納できるカメラキャディなど、すみずみまで機能性と安全性を追求しました。



内寸：40.5×25×20cm
重量：2.40kg
カラー：ブラック



■ プロトラベラーシリーズP-675

35mmカメラ3台に各種レンズ、また中型カメラも悠々収納できるビッグサイズ。レンズを装填したまま収納できるカメラキャディを持つ、機能性と信頼性の高いシステムチックなカメラバッグ。



内寸：40.5×22.5×17cm
重量：2.0kg
カラー：ブラック



■ プロトラベラーシリーズP-655

プロ用システムバッグの必要機能をコンパクトに集約。P-675よりやや小型ながら35mm一眼レフ2台にレンズ4本、または中型カメラ一式をスッキリ収納できる、プロユースに応えたカメラバッグ。



内寸：30.5×22.5×16.5cm
重量：1.65kg
カラー：ブラック



■ マルチトラベラーシリーズP-513

35mmカメラとストロボ、レンズ2本を収納。日常のビジネスでの、携帯用パソコンやファイルなどの収納にも使用できます。サイドポケットも豊富にあり、バッグの幅も調整可能な多目的マルチバッグ。



内寸：34×28×10~17cm
重量：1.0kg
カラー：ブラック、ブラウン(トリミング部)

■ スポーツシリーズPBS

80~200mmズーム、300mmF4クラスのレンズを装填したままの35mm一眼レフにプラス交換レンズ2本程度がスッキリ収納できます。コンパクトながらキャパシティがあり、タウン用としても使えるバックパックタイプ。



内寸：22.5×33×11cm
重量：0.9kg
カラー：ブラック、グレー

※写真中のカメラバッグ本体以外は、商品に含まれません。

私、キス、
 はじめます。

ママの写真は、アートになる。



スナップからアートへ。ステップアップした、新しい<Kiss>誕生

愛するものを撮るのだから、いい写真を撮りたい。残したい。そんな気持ちに応えられる。高機能を簡単に使いこなせる。あのベストセラー*、一眼レフEOS Kissがモデルチェンジ。アートと呼べる愛情表現へ。さあ、はじめのはあなたです。
 ◎小さい・軽い・簡単◎ピントの合った位置がわかる3点AF
 ◎夜景モードを新搭載。シーンで選べる多彩な撮影モード
 メーカー希望小売価格：ボディ[シルバー/ブラックの2種] ¥59,000 (税別) EF28-80mm F3.5-5.6 IV USM付き ¥89,000 (税別)



Canon
 NEW EOS
 Kiss

キヤノン株式会社・キヤノン販売株式会社

*'94年1月-'96年9月までのAF一眼の中で(MRC調査)

フォトライフ四季 ふれあい広場

読者の皆様から寄せられた、お便り＆お写真をご紹介します。

フォトコーナー●●●

ハイイ、かすきです。ほくはお父さんにそっくりなので「チビババ」と呼ばれています。7ヶ月にしてはビッグでしょ？

林 仁志・久恵様
 香川県丸亀市



左：“ウォー!!”あれこれとママのポーズの注文に、いやになっちゃった2才の息子。キッズ・フォトも意外とむずかしい…

右：うっかり茶の間のすりガラスに向けてシャッター押しちゃったら、こんなかわいい光の写真になりました。

小森けい子様 新潟県新井市

お便りコーナー●●●

初めまして。この写真は息子の歩馬です。カメラが大好きで、パパが写真を撮ろうとすると、すぐに走ってきて「ほくに撮らせて!!」といわんばかりに手を伸ばして催促します。おかげで子供の写真はアツが多くなってしまいました。「早くポーズをとってくださらないかな」と思うこの頃です。

袴田奈々子様 静岡県浜松市



お便り＆傑作写真大募集!

このコーナーでは、皆様からの楽しいお便りや、傑作写真にコメントを添えた投稿を募集しています。掲載させていただいた方には粗品を進呈いたします。ハガキ・封書での送りは、
〒222 横浜市港北区新横浜2-4-1 カメラのキタムラ
「フォトライフ四季ふれあい広場」係まで。

お便りは、ファックス番号045-476-0778でも受け付けております。また、お近くの「カメラのキタムラ」に直接お持ちいただいたも結構ですので、読者の皆様からのたくさんのご応募をお待ちしています。(なお、応募作品の返却はいたしかねますのでご了承ください。)

※このコーナーに多数のご応募をいただき、ありがとうございました。今回はすべてのお便り・お写真をご紹介できませんでしたことをご承知ください。

編集後記

すでに皆さんもお気付きのように、実はこの春号より写友会は、「フォトライフ四季」と誌名を改めさせていただきました。そこでこの新ネーミングの由来などについて少々述べさせていただきます。私たちの暮らしの中で「写真」というものを考えてみると、四季の自然や行事、またレジャーなどを思い出に残すものとして、今や毎日の生活に欠かせないものとなっています。こうした季節ごとの楽しみをさらに広げ、暮らしを彩るパートナーとして、この冊子に一層親しんでいただけることを願い、「フォトライフ四季」と誌名を改めさせていただきました。内容的にも今号から、特集ページでは写真家の先生方ひとりひとりをクローズアップして、写真に対するお考えや実際の撮影活動についてのお話を伺ってゆくなど、さらに読みごたえのある誌面づくりを目指して我々スタッフも気持ちを新たにしております。

誌名は変わりましたが、皆さんにはこれまで同様にご愛読いただきますよう、よろしく申し上げます。

プレゼントが当たる!クロスワードパズル



<ヨコのカギ>

2. 清酒を造った後に残るもの。汁物や漬物に利用します。
6. 見込み違いのこと。○○○○○○の出費などといひます。
8. 乾電池で2番目に大きいサイズ。
9. ○○は災いのもと。
10. 文章の間などに描かれたイラストのこと。
12. 映画「80日間世界一周」で使われる乗り物は？
14. 敵に○○を見せるべからず。
15. 住居のこと。終(つい)の○○○などといひます。

13 12 11 7 5 4 3 2 1
 矢を射る時に必要なもの。
 サイレンスを日本語にするとき、水の中に入れて鑑賞する造花の一種。スキャナーは読み取り機、プリンターは。栄養や必要な成分だけを抽出・濃縮したもの。日本は1道1府43府県。コシヒカリと並んで有名な米の品種。10はふたケタ、100は…

答え＝



(ヒント:ピッカピカの一年生!)

問題: クロスワードに答えて、A~Gのマスをつなぐとある言葉になります。その答えとあなたの住所・氏名・年齢・職業をハガキに書いてご応募ください。正解者の中から抽選で30名の方に、粗品を進呈いたします。
 あて先: 〒222 横浜市港北区新横浜2-4-1
 カメラのキタムラ
 フォトライフ四季
 「クロスワードパズル」係
 締め切り: 2月28日(当日消印有効)

フォトライフ四季 クロスワードパズル(Vol.18) 解答とご当選者

解答:「モミジガリ」
 <ご当選者> 清水利一(山形県)、満井博(宮城県)、武内玲子(新潟県)、岡野公一(埼玉県)、岸本久子(神奈川県)、渡辺静夫(静岡県)、杉崎敦子(三重県)、山本えみ(三重県)、堀静代(大阪府)、岡本佳永子(奈良県)、瀧口勝(兵庫県)、秋田泰巳(岡山県)、原道子(岡山県)、角田祐生(岡山県)、寺本義則(広島県)、林克美(広島県)、井戸木忠男(鳥取県)、清水千恵(鳥取県)、豊岡伸吉(香川県)、森下朱美(香川県)、杉原佳代(徳島県)、谷りえ子(高知県)、三嶋絃司(福岡県)、大和貴栄(福岡県)、有馬扶佐江(福岡県)、桂木久枝子(福岡県)、吉田一美(長崎県)、村山峰(熊本県)、添島功一(熊本県)、高良浩(沖縄県) 敬称略

FUJIFILM
I&I-Imaging & Information

ADVANCED
PHOTO SYSTEM

APSも、高画質。



FUJICOLOR
nexia



焼き増しに便利な
インデックスプリント!

フジカラー 四季

Vol.20

SPRING

平成9年3月11日発行 季刊第20号

カメラのキタムラ発行

〒222 横浜市港北区新横浜2-4-1 ☎045-476-0777